
愛の家族日誌

ゆかこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

愛の家族日誌

【Nコード】

N0209Q

【作者名】

ゆかこ

【あらすじ】

家族愛とか日記とか。ある意味家族内交換日記。愛情に満ちて。

1. Diary

2011年10月17日

妹が嫌いだ。

妹が鬱陶しくて仕方がない。バスで豚みみたいな体型でセンスがなく貧乏くさいときている。私の妹にはふさわしくない。

拾った日記帳だけどなかなか立派だ。鍵もついている。両親は妹のことに育児放棄していると思うほど無関心だ。当たり前だ、私は出来がいいのだから。この日記帳には家族模様を書いていこうと思う。ま、どうせ私と両親が妹に吐いた悪口記録帳になるだろうけど。

2011年10月18日

母が妹に夕食を食べさせなかった。成績が悪かったらしい。父は機嫌悪そうに怒鳴っていた。妹はいつもどおり泣いていた。私はその隣でシチューをおいしそうに食べてやった。おいしかった。

2011年10月19日

妹が門限を破った。母はドアを開けなかった。父は今日は不在だった。母はあとから妹を引きずり込んで殴っていた。私は妹の悲鳴を無視して寝た。というか今から寝る。おやすみ

2011年10月20日

三日坊主にならなかった。奇跡だ。夜、母がこっそり「長女は大好きなのに次女を愛せない」と電話で誰かに相談しているのを聞いてしまった。妹も聞いたみたいで部屋で泣いていた。

2011年10月21日

週末は祖母の家へ行くらしい。嫌だ。妹は祖母に気に入られていくからさぞかし楽しみなことだろう。ムカつく。父の母親なので私の母も妹ばかりひいきする祖母は嫌いなようだ。

2011年10月22日

祖母の家に行くことが決まったので妹は母に殴られても私に何を言われても泣かない。腹が立つ。そういえば今日、学校で虐待について聞かされた。どうでもいい。高校生にそんなことを言っても仕方ないと思う。念のために母に言ってみたら、あっさり虐待なんかじゃないわよと返された。

2011年10月23日

祖母の家へ行った。相変わらず頭の固い婆さんだ。ろくに挨拶もせず妹を連れて部屋に籠もってしまった。父は近所に住む伯父に会いに行った。私と母は手持ち無沙汰に居間で会話した。お茶もなかった。もう二度と行きたくない。妹だけは帰りの車で嬉しそうにしていた。私はムカつくので妹の隠し漫画を母に見せてやった。母は妹の持っていた本を全部捨てた。

2011年10月24日

なんだか朝から両親の様子がおかしかった。ケンカでもしたのだろうか。学校帰りに母のためにおいしい紅茶を買ってきた。

2011年10月25年

夕飯は大好きなハンバーグだった。母は昨日のお礼だといった。隠し味にチーズが入っていたようで、いつもよりおいしいといった。母は嬉しそうにおかわりをくれた。妹はチーズが嫌いなので半分ぐらい残した。

2011年10月26日

夕飯のときには父が帰ってきていた。いつも遅いのに何事かと聞くと、離婚すると言われた。夕飯の間、両親はずっと言い争っていた。母が泣いたので私は母と2人で一緒に寝た。私もちよっと泣いた。

2011年10月27日

両親の離婚は絶対に妹のせいだ。妹が鬱陶しい。あんなやつ生まれなければよかったのに。

2011年10月28日

朝起きたらまた父が怒鳴っていたので慌てて見に行くところ親が私の親権で争っていた。私は祖母と住むのは嫌だったので母と一緒に行くと言った。父は弁当も持たずに黙って会社へ行った。

2011年10月29日

今朝も両親が怒鳴りあっていたので見てみると今度は妹を押し付けあっていた。私が妹は父さん子だと言ったら父は露骨に顔をしかめた。優しい父がこんな風になってしまふなんて。妹が憎い。ちょうど明日、両親が離婚届けを出すというので、いつそ私は妹を殺すことにした。包丁を研いでおいた。

2011年10月30日

今日、妹を殺す。そして私は両親と幸せに暮らす。ちなみに今日からはじめて朝に日記を書いてみた。ばいばい、梨花。

2. 育児日記

10／17（月）

絵梨が生まれて以来の育児日記だ。久々に日記帳を買ってみたのでなんだか懐かしい。絵梨の部屋にも色違いのものを置いておいた。親子でお揃いというのも久しぶりだ。照れくさい。喜んでくれるだろうか。絵梨は長くの間愛しい一人娘だった。次女も、絵梨のようなかわいい子が生まれてくるかと思っていたのに、梨花は無愛想でまったくかわいくない。おかしい。実の娘なのに、梨花を愛せない。私はどうしたらいいのだろう。母親失格だ。それにしても、やっぱり梨花は苦手だ。どうしてだろう？ 絵梨はあんなに愛しいのに……。

10／18（火）

頑張って朝からシチューを煮込んだ。家族揃って食べようと思っていたのに、よりによって梨花が7時半を過ぎて帰ってきた。おまけに見せてきた成績表がひどい。絵梨とは大違いだ。梨花のせいで一家にみっともない噂が立ったりしたら困る。夫もこっぴどく梨花を叱り付けていた。絵梨はおいしそうにシチューを食べてくれた。うれしい。

10／19（水）

また梨花が夕飯に遅れた。今度は8時半だ。もう我慢できない。一体あの子は外であんな時間まで何をしているのだろうか？ 9時ご

ろまでドアは開けなかった。反省させなければ。私はきっと育児を間違えたのだ。長女が優秀だと次女の教育が疎かになってしまおうという。もっと注意して駄ない。それにしても高校生にもなっている子はなんでああなんだろう？

10／20（木）

大学時代の親友に電話をした。懐かしい。彼女にも二人娘がいて、色々相談できて楽しかった。次女を愛せないことを打ち明けると、大丈夫よと言ってくれた。でも途中で廊下から足音が聞こえたので心配だ。梨花に聞かれただろうか……。

10／21（金）

週末に夫の実家へ帰省することになった。憂鬱だ。義母は頑固でやたら梨花に執着していて鬱陶しい。若いときから意地悪な婆だったので、仕方がないが。手土産はどうしよう。

10／22（土）

梨花が週末を心待ちにしている。いつも愛せないが為に乱暴している罪悪感が少し軽くなった。でも同時に長女に「梨花のこと虐待してない？」と聞かれた。どきりとした。いや、これは虐待じゃない。教育だ。高校生にもなってまともに一般常識のできない梨花が悪いのだ。

10／23（日）

夫の実家へ行った。義母は早々梨花を連れて部屋に戻っていった。私と絵梨は居間でだらだら数時間過ごした。馬鹿みたいだ。4時間もあれば家の掃除ができたのに。とっととボケればいいのに。

10／24（月）

夫とケンカをした。理由は些細だがどうしようもないことだ。まだぎくしゃくしている。でも気にしてくれたたのか、絵梨が紅茶を買ってきてくれた。優しい子だ。嬉しくてこっそり泣いた。

10／25（火）

昨日のお礼に、長女の大好きなハンバーグを作った。頑張った甲斐があつてとても喜んでくれた。でも梨花は半分以上も残していた。気に入らなかったのだろうか。半日かけたのに……。滅入ってしまった。でも絵梨が「明日のお弁当に入れて」と言ってくれた。なんていい子なんだろう。比べてはいけないとはわかっているけど、どうしても梨花の態度と比較してしまう。

10／26（水）

とうとう離婚することにした。娘たちに申し訳ない。だけれどもう夫とやっていくのはこれ以上、無理だ。娘たちの気持ちを思うと辛かった。絵梨と一緒に寝てくれた。一緒に泣いた。今後、どうするのだろうか。とりあえず慰謝料で絵梨と二人でマンションを借りよ

うと思う。梨花も一緒に連れて行くのだろうか……。

10／27（木）

絵梨が離婚のことをよっぽど心配しているみたいで、本当に申し訳がない。このことで梨花を憎んでほしくはない。だけれど絵梨に事実を言う勇氣はない。夫はちゃんと絵梨に言うのだろうか？心配だ。梨花にも言うべきなのだろうか。でもあの底意地の悪い子に言ったら絵梨を馬鹿にするに違いない。やっぱりやめておこう。このことは私と夫の胸にそっとしまっておくべきだ。そういえば、日記を書き始めて10日が経つ。なかなか続くものだ。

10／28（金）

夫の怒鳴り癖がまた出てしまった。娘たちは怖がってしまっている。事情がどうであろうと、絵梨の育ての親はこの私だ。私から絵梨を取り上げるなんて許せない。それにしても梨花もかわいそうだが、絵梨に嫌味を言ったりしているのは腹が立つ。絵梨は何も悪くないのに。絵梨は私と一緒にいきたいと行ってくれた。

10／29（土）

また夫とケンカをした。私は絵梨と梨花を離したくて相談したのに、夫は「姉妹は一緒のほうがいい」といつて聞かない。梨花と絵梨の仲が悪いことを夫は知っているのだろうか？絵梨はほぼ私と行くことが決まっていたので、夫が独りにならないようにか「梨花はお父さん子だよ」と言っていた。本当に優しい。でも夫は明らか

に面倒くさそうな顔をした。実の娘に対して。最低な男だ。

どうも絵梨の様子がおかしい。両親が離婚するといっているので動揺しているのだろう。かわいそうに。本当に申し訳がない。

3. Chronicle

岡田ちとせ様

お久しぶりです。もう何年、お会いしていないでしょうか。あなたの声が恋しい限りです。絵梨は今、美幸に育てられ元気に高校生活を送っています。いまだあなたという母親がいることを打ち明けてはいませんが、いずれ教えようと思います。

さて、もう16年も前のことになりますね、私達の関係が在ったのは。今更言い出すなど卑怯かもしれません。しかしどうしても伝えたく、こうして10年ぶりにお手紙を書いた次第です。2年前にお送りした絵梨の入学式の写真は、届いていますでしょうか？このたび、私は美幸との離婚を決意しました。絵梨は私が引き取ろうと思います。ここで今一度お願いさせていただけないでしょうか。私と絵梨と一緒に、家族になる気はございませんでしょうか。私はあなたが恋しくてたまりません。

このような恋文を綴るのはいつ以来でしょうか……。あなたにはずいぶんと情熱を注いだものです。しかし中途半端に家族をとった卑怯な男をお許しください。私はまだあなたのことを美幸以上に愛しているのです。あなたと絵梨は、私の家族なのです。あなたを愛しています。どうか、また私を愛してくださいませんか。

絵梨はとても優しく気立てのよい娘に育ちました。私はもう女として美幸を愛してはいませんが、彼女は絵梨のよい乳母だったと思います。私を酷な男だと思いでしょうか？ 私があなたから絵梨をいただいたときのあなたのお気持ちを考えると、今でも胸が張り裂

けそうになります。あなたを独りにさせてしまったことを、16年間ずっと悔やんでおりました。どれだけお寂しい思いをなさったことでしょうか。もう一度、あなたに絵梨の肩を抱いてほしいのです。

30日の午後、あのとときの公園でお待ちしています。どうか、どうかいらしていただけますように。私はあなたを愛しているのです。もう一度あなたの愛しい名前を呼びたい。どうか、許してはくれませんか。私の妻として、絵梨の真の母として、私たちの家族となつてはいただけないでしょうか。

千葉亮

4. 愛の独白

こんにちはー、みなさん。どうも梨花でーす。あれ？ 梨花の名前に聞き覚えありませんか？そうです、あのバカ姉の妹であの鬼ババの娘でーす。ほんとにバカですよ、あの母娘。ま、もう過去形ですが。梨花、お姉ちゃんとお母さんとお父さん殺しちゃいましたから。ふへっ。

ほんとうざかったんですよー、特にお姉ちゃんとお母さん。意地悪な義姉と義母みたいです。あ、そしたら梨花がシンデレラか。ふひひ。

とにかくお姉ちゃんには特にバカでウザかったんですよー。梨花が毎晩日記読んでるの気付かなかったんですかねー。梨花のレディコミをお母さんに暴露するなんていい神経してますよねー。死んじゃえばいいのに。ってか梨花がもう殺しましたけどね。ぐひひひ。

お姉ちゃんとお母さんが梨花の大好きなおばあちゃんの悪口言ったとき、もう殺すことにしたんですよ。梨花、お姉ちゃんとお母さんが憎いんです。愛せないからって殴る必要がありますー？ ないですよね。ふへへ。

もう離婚するとか言い出しちゃったんで、殺しちゃいました。それにしてもお姉ちゃん知らなかったんですかね、離婚の理由。ふひ。でも教えてあげませんけどねー。

お姉ちゃんが梨花を殺そうとしてるのも予想の範囲内でした。ぶっちゃけいうとお姉ちゃん、母親譲りで頭悪いんですよ。もう何ヶ月も考えてた殺人計画が、バカの一夜漬け程度で狂うわけありま

せんよね。梨花は頭いいし。そもそもお姉ちゃんは殺されるとも思
ってなかったのかもしれないねー。だからあんなバカな日記、机
に置いたまま熟睡できるんでしょうね。ぐひっ。

お姉ちゃんが金曜日に包丁を研ぎ出したときにピンと来たんです
よ。だから梨花、優しいんで言っただけでした。よく切れそうだね
って。そしたらお姉ちゃんニタニタ笑ってそうだねって言うんで確
信しました。それで今に至るわけです。

で、お姉ちゃんが梨花のために研いでくれた包丁でまずお母さん
からグサツといきました。

意外と血とか出ないんですねー。ちよつとがっかりでした。しか
も音も小さかったし。まったく最初から最後まで役立たずなおばさ
んでしたねー。バカって困ります。

お姉ちゃんはかなり慌てて梨花のこと刺そうとしたんですけど、
包丁は梨花が持ってたし逆転できるわけないですよ。お姉ちゃん
梨花のこと豚とか言っていましたけどほんとは梨花のほうが細いん
ですよ。はひ。で、お姉ちゃんも死にました。

問題はお父さんですよ。実は梨花、それほどお父さんのこと嫌
いじゃなかったんですよ。ま、お姉ちゃんやお母さんに比べての話
ですけど。でも、お父さんの最大欠点、知ってますー？

えへへ、正解。

お父さん、最後までお姉ちゃんの本性を知らなかったんですよ。
だから梨花、お父さんの実家のお墓にお姉ちゃんの日記帳入れてき

てあげました。お父さん、あの世でおっかなびっくりですねえ。ふひっ。

ちなみに梨花は逮捕されたくないのです。お父さんには自殺してもらいました。意外と言うこと聞いてくれましたよ。お母さんとお姉ちゃんの死体を見て狼狽えてるお父さんに血だらけの包丁を握らせて、後ろから声をかけました。そしたら叫び声あげてお父さん死んじやいました。ぐへへ。

ちなみに警察は呼びませんでしたー。どうせあとから来るだろうし連絡は後にしました。死亡保険金が下りた頃にねー。

で、すっかり身が軽くなった梨花は真っ先におばあちゃんちに行っただけです。一緒に暮らそうと思って。でもね。

おばあちゃん死んじやってたんです。老衰で。なんか家が生臭くて、おばあちゃんの部屋に入ったら、おばあちゃん腐ってました。現代社会によくあるパターンのお年寄りの死に方ですね。ぐひひ。ということでなんか梨花独りになっちゃいました。ま、あの家族と暮らすよりは万倍マシですけどね。

あ、なんか電話が鳴ってるんで梨花そろそろいきますね。ばいばい。

そういえばさつき、お父さんとお母さんの離婚の理由言いましたっけ？ あれお姉ちゃんのせいなんですよね。お姉ちゃん、ほんとはお母さんの子供じゃないんです。お父さんの愛人の子なんですよねー。でもお母さん、赤ちゃんの頃から育ててたんで愛情はかなりあったみたいです。実子の梨花よりずっとね。

でもお姉ちゃんが成長してだんだん愛人さんに似てきたっていうんで、お父さんは気味悪がってお姉ちゃんをお母さんから離そうとしたんです。でもお母さんはお母さんでお姉ちゃんをかなりかわいがってたんですよ。お姉ちゃんって色々不幸でしたね。ふひひ。ま、お母さん、実は親子愛以上のものをお姉ちゃんに感じてたりしてね。なーんつつて。

お父さんがやたら公園に行きたがってた理由、わかったでしょ？ うへへ。残念でしたー。家族崩壊なんてこの梨花が許しませんからね。だってとっくに壊れてますもんねえ。ね。ひひ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0209q/>

愛の家族日誌

2011年1月13日02時00分発行